

ウケシコロペ ～受け継ぐもの～



岡本 朋也 (おかもと ともや)

1997年6月25日生まれ

北海道浦河町出身。2023年4月から平取町二風谷で地域おこし協力隊として活動。2021年アイヌ語弁論大会イタカンロー大人の部弁論部門 最優秀賞受賞。2023年伝承者育成事業第5期修了。2023年アイヌ工芸品コンテスト奨励賞受賞。

【平取町地域おこし協力隊になるまでときっかけ】

私の父方はアイヌ民族の家系です。ルーツは日高の様似町にあり、そこで私の先祖たちは、アイヌの文化を守り、受け継いできました。18年間を様似町の隣町、浦河町で育ちましたが、アイヌ文化に触れることは多くはありませんでした。多くの人たちと同じように部活（中学は野球部、高校はバレーボール部）に明け暮れ青春を過ごしました。私がアイヌにルーツがあるということは知っていましたが、アイヌだということは高校を卒業するまで一度も言ったことはありませんでした。アイヌ民族が過去に差別やいじめなど負の歴史があることは知っていたので、差別やいじめとまでではないがアイヌと揶揄されることを恐れていたこともあり、言う必要がないと感じたためです。

転機となったのが、大学に進学し、札幌大学ウレシ

パクラブという団体でアイヌ文化を学び始めてからです。ウレシパクラブは2010年に発足し、経済的に進学が困難なアイヌの学生に対して授業料相当の奨学金を給付し、アイヌ文化を学びながら大学に通うことができるというもので、ウレシパクラブで学ぼうちに私がアイヌだというアイデンティティが確立されていきました。

アイヌ文化を学んでいく中で、木彫りに興味が出てきました。もともと、ものづくりや工芸品は好きでやってみたいという気持ちはありましたが、木材や彫刻刀の調達などできず、機会もありませんでした。そんな時にタイミングよくアイヌ民族文化財団の「伝承者育成事業」の誘いがありました。伝承者育成事業とは3年かけてアイヌ文化の全般的な知識を学び、将来の伝承者となっていくための事業で、その第5期生として受講しました。そこで初めてアイヌの木彫りを学び、アイヌ文様の書き方や木材の加工方法、彫刻刀の研ぎ方、彫り方など基本的なことを学びました。3年間でいろいろなアイヌ民具を作り、技術を高めていきました。

また、私の地元へ研修として行った際に、改めて木彫家を強く志すできごとがありました。その時の講師は、私の祖父の妹にあたる方で、様似町のアイヌ文化伝承者であり、様似町アイヌ文化保存会元会長の熊谷カネさんでした。その時に私の祖父が浦河町で民芸店いとなを営んでいたという話を聞きました。運命なのかアイヌとしての血なのかわかりませんが、そういうふうに導かれているような気もして、とても嬉しく思いました。大好きだった祖父の後を追って、木彫家として生きていきたいと強い意志ができました。



左から4人目が祖父（40～50年前にお店の前にて）

伝承者育成事業が修了して進路を考えていた時に、自分の進む道はひとつ、木彫りで生活していきたいと思っていましたが、現実的に木彫りだけで食べていくことが難しいので、とても悩みました。そんな時に平取町で地域おこし協力隊の募集があり、アイヌ工芸を担っていくための木彫りに挑戦できることを知り、地域おこし協力隊に応募しました。

【地域おこし協力隊のおもな活動】

2023年4月より平取町地域おこし協力隊アイヌ工芸支援員として着任しました。

平取町二風谷はアイヌ工芸がとても盛んで、2013年には、経済産業省から伝統的工芸品に指定されました。北海道では2つ指定されていて、それが平取町二風谷にあります。

二風谷イタと二風谷アットゥシです。二風谷アットゥシはオヒョウニレという木の皮の内皮を薄く割いていき、織り機で織っていく反物たんものです。

二風谷イタは木製の平たい形状のお盆で、その上に伝統的なアイヌ文様を施していくものです。

このような伝統工芸なりわいを生業なりわいにしている職人が多く住んでいる、というところも他の地域にはない特色で、その地域に住みそこで教えてもらえるというのは、これ以上ないほど恵まれているなどと思います。

アイヌ工芸支援員として4月からスタートしましたが、アイヌの木彫りを経験してからのスタートだったのでこの経験を1年目からうまく活かして、どんどん自分の作品を作っています。6月には埼玉県大宮市で物産展があり、イタを2枚出品しました。そのイタは「若い人が頑張っているから」ということで2枚とも買っていただきました。

初めて自分の作品を買っていただいたことは、とても嬉しく思い感謝と同時にもっと頑張ろうとモチベーションが上がりました。7月には、アイヌ工芸品コンテストがあり、そこで鹿角シカツノを用いたマキリ（小刀）を出展しました。そこでは奨励賞をいただき嬉しく思いました。他にもイギリスロンドンでイベントがあり、そこで展示するイタの製作など経験できないようなことをさせてもらえるので、日々勉強しながら、技術の向上を目指しています。



作品

【将来の展望】

地域おこし協力隊は3年の任期なので、それが終わると自分の腕一本で勝負しないといけません。それまでに販売ルートを確認し、私を評価してくれるお客さんを増やしていけるように努力していくこと、コンテストで一番いい賞を取ることを目標に頑張っていきたいと思います。

そしていつかは、私の祖父のお店の名前、フシコ民芸（フシコとは「古い」という意味のアイヌ語）というお店の名前を受け継ぎ伝統的なものを大切にしながら、新たな自分自身を表現できるような作品を生み出していきたいと思います。

【最後に】

これを見ている皆様に1つアイヌ語をご紹介します。

「カント オロワ ヤク サッ ノ アランケァ シネァ カイサム」(天から役目なしに降ろされたものはひとつもない)

ゴールデンカムイにも書かれている言葉です。どんなものにも役割があって、その役割を全うするために降ろされるという格言です。自分自身の役割を全うするために毎日を全力で駆けていこうと思います。

平取町二風谷にぜひ遊びに来てください。

お待ちしております。